平成19年度に実施された事業の結果報告及び今後の方向性（概要）

※本ページは各事務事業の概要紹介と19年度の報告を目的としています。評価の詳細については次ページをご覧ください。

事業名	女性保護事業	所管	保健福祉部 子ども支援課 TEL 2998-9124

事業の目的（何の為に行うか）	女性が、暴力によって生命や生活の安全を脅かされる状況を解消し、社会の中で自立・自律していくうえでの安全で安心な生活を確保する。

対象（誰を、何を対象としているか）	配偶者、恋人など親密な関係にある男性から暴力を受けている女性からの相談件数	対象とした数	70 件
		実際に利用した数	10 件

活動の内容

（何をしたか）

①電話又は面接により、DV被害者の相談に応じ、助言・情報提供等を行う。
②緊急性がある場合は、一時保護施設の利用援助を行う。
③必要に応じ、関係機関の紹介や関係機関との連絡調整を行う。
④自立のための支援を行う。

活動実績	項目名	実績	項目名	実績	項目名	実績
	相談件数	70 単位 件	保護件数	10 単位 件		単位

経費（どれだけかかったか）	当初予算額（千円）	決算額（千円）	事業費合計（千円）※人件費・公債費を含む	市民一人当たり単価（円）
	146	0	9,018	26.6

成果（結果としてどうなったか）	成果指標名	説明 （計算方法等）	目標値	実績	達成率
	相談対応件数	実績÷目標値	80 単位	70 単位	87.5 単位 %

今後の方向性（所管の意見）		
	総合評価	＊ 事業の継続 ⇒ 拡充 縮小 統合 ＊ 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕
		終了 ⇒ 事業完了 終了 休止
	予算	＊ 現状どおり 増額 減額 終了

今後の方向性（二次評価の意見）		
	二次評価実施の有無 有り⇒下記評価へ ＊ 無し⇒終了	
	総合評価	拡充 縮小 統合 改善・効率化 改善余地なし その他〔 〕 終了
	予算	現状どおり 増額 減額 終了

平成　20 年度事務事業評価表（一般用）

①事務事業名		担当部課	部課コード	040500	TEL	2998-9124
事業コード 040527	女性保護事業		保健福祉部 子ども支援課			
開始年度　平成　14　年度　→　終了年度　平成　　年度			グループ	相談・援助担当		

②事業の概要

事業の種別	☑ 自治事務　☐ 法定受託事務　☐ 法定受託＋附加	根拠法令
分野別計画・指針	所沢市次世代育成支援行動計画	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律
関連・類似事業	母子緊急一時保護事業	
総合計画の体系	政策：第7章 人々がふれあう温かいまち／施策：4節 男女共同参画社会／中柱：1 男女の人権の尊重／小柱：(2)女性に対する暴力等の根絶	
・H19市民意識調査における施策の順位…43施策中　32　位	・実施計画における位置づけ… H19　○　H20　○	
行政改革大綱における行動計画への位置づけ	コード　コード　コード	
事業開始の背景	配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律の制定により、ドメスティックバイオレンスが性差別的な社会構造や性別役割分担意識から生じる社会的問題であり、女性の心身を傷つける許されない人権侵害であることが明確となった。これを受け女性の人権を守り、自立を援助する等の総合的な支援事業を開始した。	

③事業の内容

目的（何のために行うか、具体的に）

女性が、暴力によって生命や生活の安全を脅かされる状況を解消し、社会の中で自立・自律していくうえでの安全で安心な生活を確保する。

対象（誰を、何を対象としているのか）				利用数の考え方			
配偶者、恋人など親密な関係にある男性から暴力を受けている女性からの相談件数				保護件数			
対象数	単位	平成 18 年度	63 件	利用数	単位	平成 18 年度	6 件
		平成 19 年度	70 件			平成 19 年度	10 件

事業の具体的な内容及び実施方法

①電話又は面接により、DV被害者の相談に応じ、助言・情報提供等を行う。
②緊急性がある場合は、一時保護施設の利用援助を行う。
③必要に応じ、関係機関の紹介や関係機関との連絡調整を行う。
④自立のための支援を行う。

④前年評価と改善点

平成19年度事務事業評価結果（平成20年度の方向性）　≪ 最終評価　☐ 一次評価　☐ 二次評価 ≫

総合評価	☑ 事業の継続　⇒（ ☑ 拡充　☐ 縮小　☐ 統合　☐ 改善・効率化　☐ 改善余地なし　☐ その他〔　〕）
	☐ 終了　⇒（ ☐ 事業完了　☐ 終了　☐ 休止　）
予算	☑ 現状どおり　☐ 増額　☐ 減額　☐ 終了

平成19年度中に改善した点

適切な相談・保護対応を実現するため相談シートの様式を変更し、担当者間での情報の共有化が円滑に行えるようにした。

⑤経費

≪会計種別≫　一般会計	平成 18 年度（千円）		平成 19 年度（千円）		平成 20 年度（千円）
当初予算		219		146	146
決算（見込み含む）		0		0	
（嘱託職員）（臨時職員）	（　人）	（　人）	（　人）	（　人）	
正規職員人件費	0.96 人	8,832	0.96 人	9,018	※「財源内訳」について 平成20年度のみ、当初予算の内訳となっています。
公債費					
事業費合計		8,832		9,018	
財源内訳：一般財源		8,832		9,018	146
財源内訳：国・県支出金					
財源内訳：受益者負担金					
財源内訳：市債					
財源内訳：その他					
市民一人当たり（単位：円）		26.1		26.6	
利用数一単位あたり（単位：円）		1,472,000.0		901,824.0	

⑥指標

	項目名	計算方法	単位		H 18	H 19	H20見込み	将来目標
活動実績	相談件数	実績	件		63	70	80	
	保護件数	実績	件		6	10	10	
成果分析	相談対応件数	実績÷目標値		目標値	70	80	80	
				実績	63	70	実績値の拡大を図る1 実績値の縮小を図る2	1
			%	達成率	90.0	87.5		

⑦一次評価

評価項目	現状評価	評価項目	現状評価	
対象設定	事業の対象を見直す必要性：☐ 対象を絞る　☑ 対象を拡大する　☐ 見直しの必要なし	実施主体	現在の実施主体：所沢市	見直しの必要性：☐ 有　☑ 無
他事業との整理・統合	類似・関連事業などとの整理・統合：☐ 統合する　☑ 連携する　☐ 類似事業がない　☐ 統合等必要なし	受益と負担の関係	受益者負担の有無：☐ 有　☐ 無	見直しの必要性：☐ 有　☑ 無
明らかとなった課題	DV被害の対応窓口が広く認知されてきたことで相談件数が増加している。また被害の実態は年々複雑化しており、より充実した相談・保護体制が求められている。			

	今期目標項目（何を）	達成水準（どこまで）	時期（いつまで）
平成20年度における目標設定	十分な聞き取り等による状況把握、迅速な保護対応	関係機関との連携の強化	年度内

平成21年度における事業の方向性

総合評価	☑ 事業の継続　⇒（ ☐ 拡充　☐ 縮小　☐ 統合　☑ 改善・効率化　☐ 改善余地なし　☐ その他〔　〕）
	☐ 終了　⇒（ ☐ 事業完了　☐ 終了　☐ 休止　）
予算	☑ 現状どおり　☐ 増額　☐ 減額　☐ 終了

評価理由

社会情勢の変化等に対応し適切な保護を行うため、専門知識を有するアドバイザーによる対応や他の相談機関、保護機関との連携による取り組みを充実していく。また、保護等ののちに自立した生活が確保できるよう、支援制度等の適切なあっせんを行うための相談体制の充実を進める。

評価日　平成20年6月6日　記入者職氏名　子ども支援課　黒澤潤子

⑧二次評価

一次評価を受けて：平成21年度における事業の方向性

総合評価	☐ 拡充　☐ 縮小　☐ 統合　☐ 改善・効率化　☐ 改善余地なし　☐ その他〔　〕　☐ 終了
予算	☐ 現状どおり　☐ 増額　☐ 減額　☐ 終了
評価理由 評価日	

次年度用事前評価

部内優先順位・・・　位		非常に高い	高い	やや低い	低い	優先度評価
見込まれる貢献度	総合計画上位目標	☐	☐	☐	☐	☐ A：優先的に資源配分をするべきと評価する事務事業
	市長マニフェスト	☐	☐	☐	☐	☐ B：重要であり引き続き実施すべきと評価する事務事業
						☐ C：現状での実施は見送るべきと評価する事務事業
評価理由 評価日						

⑨個別計画における方向性

◎環境基本計画　本事業の左記計画における位置づけ・・・ 無し　計画コード

施策の体系		施策の方向	

◎次世代育成支援行動計画　本事業の左記計画における位置づけ・・・ 有り　計画コード　1215

基本目標	1子どもたちがたくましく生きていくための力を伸ばします
主要課題	2ホームタウンとしての家庭・地域づくり
施策の方向	1健全な家庭づくり